第一部　年間の諸行事・諸活動と教育事業・研究活動・社会貢献等の成果

Ⅰ　大学共通事項

1　教育事業

（1）修学基礎・導入教育

・スプリングセミナーの開催

本事業は、平成 15 年度より総合福祉学部(当時は社会学部)において、「親子セミナー」として開催されている。平成 17 年度には国際コミュニケーション学部でも実施され、入学前教育・導入教育の体系化を目指した事業に位置づけられている。また、平成 17 年度より事業名称を「スプリングセミナー」に変更した。

本セミナーは入学予定者、そのご父母を対象として、高校生活から大学生活への学習面や意識面でのスムーズな移行を図り、大学での学習、大学生としての日常生活や課外活動等における様々な不安の解消、学習面での意欲の涵養などを目的にしている。

総合福祉学部では平成 18 年 3 月 18 日(土)に開催され、入学予定者に対し、①卒業生による講演「私が在学していた頃は、卒業してから思うこと」、②本学部専任教員による模擬授業、③在校生からのオリエンテーション（学内行事、サークル活動等)、④在校生による質問コーナー、⑤入学予定者と在校生の交流会などが行われた。

入学予定者の父母に対しては、①本学専任教員による講演会「大学で学ぶということ」、②本学部を紹介した NHK 番組の放映、③学生支援体制、奨学金、就職・進路等のオリエンテーション、④保護者対象の相談コーナーなどが行われた。参加者数は 453 名、父母参加者数 395 名であった。

国際コミュニケーション学部では平成 18 年 3 月 11 日(土)に、午前と午後の 2 グループに分けて開催され、入学予定者に対しては、在学生主体の事業として、ブラジル研修報告、インターンシップ報告、大学生活の紹介が行われた。また、入学予定者の父母対象の学部説明会として、教員による学習支援体制の説明を行うとともに父母からの個別相談の場を設けた。なお、入学予定者対象の「英語クラス分け試験」も併せて実施した。参加者数は 267 名、父母参加者数 144 名であった。

・図書館によるオリエンテーション･ガイダンス事業

高等教育において学習上必要な文献等の情報をより効果的、かつ適切に収集することは大学での学びにとって不可欠なものである。本学図書館では、図書館の利用方法、文献等検索の方法など、図書館職員が「修学基礎教育の一環」として、「基礎演習」の授業等において実施している。

淑徳大学みずほ台図書館では、国際コミュニケーション学部の全入学生を対象に「図書館オリエンテーション」を 1 年生基礎演習クラスの必修とし実施している。内容は、図書館利用案内に関するビデオ視聴、OPAC 実習などである。この他に、外部データベースを利用するための「データベース検索ガイダンス」、「パスファインダーガイダンス」なども実施

している。また、大学院生対象には、「修論作成ガイダンス」として講座方式の研修を含め、各種検索実習等を実施し、論文作成の支援活動を行っている。

淑徳大学千葉図書館における図書館オリエンテーション事業は、総合福祉学部の全新入生(基礎演習クラス単位)を対象に実施している。内容は、図書館利用案内に関するビデオの視聴、OPAC 実習などである。さらに、2 年生以上を対象にしたガイダンス事業においては、主に専門演習単位等で実施し、各種の情報検索の実習を行っている。1 年生対象の図書館オリエンテーション事業は、社会福祉学科が 14 ゼミ、314 名であり、心理学科は 7 ゼミ、179 名、社会学科は 3 ゼミ、74 名である。2 年生以上対象の図書館ガイダンス事業は社会福祉学科が 12 ゼミ、226 名、心理学科が 7 ゼミ、73 名、社会学科が 4 ゼミ、60 名となっている。

・「全学共通基礎教育プログラム」の展開

総合福祉学部ならびに国際コミュニケーション学部の両学部に共通する「全学共通基礎教育プログラム」は、新入生を対象にした修学基礎教育・導入教育の一部である。

両学部共通の教育目標としては、「大学で学ぶことの意義や学び方」、「他者とのコミュニケーションの取り方」、「自己表現の方法」等である。ただ、学部として、学科としての教育目標の面から教育内容の強調点に相違があるために以下のようなシラバスとなっている。

1. 総合福祉学部のシラバス

基礎演習Ⅰ	前期　2 単位	学科共通

【授業のねらい】

大学は自分の興味や関心を深く探求できるところです。しかし、そのためには探求する方法を知らなければなりません。この授業では、大学生活においてみなさんが知的な興味を満足させることができ、みなさん自身の世界を豊かに、かつ広げられるように、基礎的な探求方法や自己表現の方法について、実際に課題を行ったり、仲間と交流することを通して学びます。

【授業の体系】

・この授業は、大きく二つのユニットから成り、各ユニットが数週間にわたり展開します。
・二つのユニットはどちらを先に学ぶことも可能です。それは担当教員が決めます。
　ユニットの学習においては、教師の指導だけではなく、みなさんが小グループを形成し、できる限り協同で学ぶ形式をとります。
・リアクションペーパーに各自の意見などを書いてもらう場合もあります。
・各ユニットの期間は、授業日数の関係や教員の展開の仕方により、多少変動があります。
・ユニット A か B の中で、仲間との交流を促すために特別な活動が一回行われます。これは学生と教員で考えます。

ユニット A	スピーチや口頭表現による自己表現の仕方を学ぶ
ユニット B	レポート作成の仕方を学ぶ

【授業計画】

	テーマ	内容
1回(新入生ｾﾐﾅｰでのｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ)	オリエンテーション	・この授業の意義と進め方を理解する。 ・グループ作り　・クループ内での相互理解 「就きたい職業」をテーマに自由討論　等
2回	時間割の作成	・履修計画を立て各自の時間割を作成する。 「履修の手引き」「講義要覧」を参考に。
3回～8回	ユニットA	・自分を印象深くみんなにアピールする。 ・本、雑誌等を読み、わかりやすく内容を紹介し、意見を述べる。 ・互いにスピーチを評価し合う。テーマを設定してスピーチする。等
9回～14回	ユニットB	・論理的文章について理解する。 ・論理的文章の作法(構成、引用、注など)を学ぶ。 ・文献の調べ方を理解する。　・短い文章を書いてみる。 ・互いに文章を公表してみる。　等
15回	まとめ	・自分たちの成長を自己評価、相互評価する。 ・「基礎演習Ⅱ」の説明。

注：内容の取り上げ方は教員の工夫により異なります。

【使用テキスト・教材】　適宜、プリントなどを配布します。

【成績評価の方法】

口頭発表・スピーチ（A）
文章（B）　70%位

授業への参加状況(出席・授業への取り組み)　30%位

＊授業への取り組みに関しては、学生の自己評価や相互評価も参考にします。

＊リアクションペーパーを評価の対象にするか否かは担当教員がオリエンテーションで述べます。

基礎演習Ⅱ　後期　2単位　学科共通

【授業のねらい】

この授業では、「基礎演習Ⅰ」で学んだ基礎的技術を実際に活用し、さらに発展させることにより、問題を探求するおもしろさを味わい、より主体的に学ぶ姿勢を身に付けます。

【授業の体系】

・この授業には二つの系列があり、どちらかの系列で授業が展開されます。

・どちらの系列も、基本的に学生が中心となって進めます。

・どちらの系列も、討論の後に各自の意見をリアクションペーパーに書いてもらいます。

・どちらの系列も、授業の成果として「報告書」あるいは「まとめの文書」を完成させます。
・どちらの系列で学ぶかは、前期でのみなさんの学習状況や教員の専門を考慮して、「基礎演習Ⅰ」の最終授業日までに教員が選択します。

系列A	研究活動
	テーマを設定して、研究調査を行い、報告書にまとめ、発表するという一連の活動を行います。そのことにより、調査の仕方や発表討論の仕方に習熟します。
系列B	文献講読
	全員が順番で担当者となり、文献の内容について報告し、全員で議論・討論することを通して内容の理解を深めます。そのことにより、文献の読み方や発表・討論の仕方に習熟します。

【授業計画】

系列A

	テーマ	内容
1回	時間割の作成	･履修計画を点検し各自の時間割を作成する。 「履修の手引き」「講義要覧」を参照する。
2回	自分を知る	･自分の適正を知り将来の展望を考える。 ･「進路興味適性検査」等を実施する。
3回～13回	グループ(個人)での研究	･テーマを設定する。 ･報告書を作成する。 ･活動計画を作成する。 ･研究発表する。 ･調査する。 ･討論する。 等
14回	まとめ	･自分たちの成長を自己評価(相互評価) する。

系列B

	テーマ	内容
1回	時間割の作成	･履修計画を点検し各自の時間割を作成する。 「履修の手引き」「講義要覧」を参照する。
2回	自分を知る	･自分の適正を知り将来の展望を考える。 ･「進路興味適性検査」等を実施する。
3回～13回	文献講読と討論	･分担による要旨の作成 ･内容についての報告と問題提起 ･内容について討論 ･「最終報告書」または「まとめの文書」の作成等 ･研究発表する。 ･討論する。 等
14回	まとめ	･自分たちの成長を自己評価(相互評価) する。

注：具体的な授業展開は教員の工夫により異なります。

【使用テキスト・教材】

系列A：教員によってはプリントを配ることがあります。

系列B：「基礎演習」の最終授業日までに教員が決めます。

【成績評価の方法】

報告の文書、発表
リアクションペーパー　　70%位

授業への参加状況(出席、授業への取り組み)　　30%位

＊授業への取り組みに関しては、学生の自己評価や相互評価も参考にします。

2. 国際コミュニケーション学部のシラバス

1) 人間環境学科

基礎演習Ⅰ　　2単位

この学部と学科の特徴を理解して、単位の取り方や履修計画、学習方法など、大学生活に必要な基礎知識を身につけることが第一の目標です。また、大学生活を通じて将来の目標を発見し、その目標を実現するためにはどうしたらよいのかを皆さんに考えてもらうことも、重要な目標です。同時に、日本語の作文技術、ノートの作成方法、インターネットの情報検索技術など、大学の授業を受けるための基礎技術を修得するための授業でもあります。

授業計画
第 1 回　1年生の授業内容・カリキュラム・履修登録の説明
第 2 回　キャンパス見学 1
第 3 回　キャンパス見学 2（どちらかに図書館の利用法説明を含む）
第 4 回　自分と他人を紹介する 1（話しを聞きながらメモを取ってみよう）
第 5 回　自分と他人を紹介する 2（メモをもとに自己・他者紹介をしてみよう）
第 6 回　プロフィールを作成する 1（メモを正式な文書にする）
第 7 回　プロフィールを作成する 2（お互いの文章を読んでみよう）
第 8 回　授業について考える 1（面白い授業とつまらない授業の違いは何か？）
　　授業について考える 2（必要のない授業はあるのか？）
第 9 回　授業について考える 3（マナーはなぜ必要なのか？）
第 10 回　授業について考える 4（興味のある職業と授業の関係について考える？）
第 11 回　自分は何が向いているのか？（意見を述べる）
第 12 回　自分はどんなことがやってみたいのか？（意見を述べる）
第 13 回　授業とやりたいことの関係を整理する（履修計画をまとめる）

評価方法　出席と授業への積極的な参加・簡単なレポートなど

テキスト名　淑徳大学国際コミュニケーション学部編　「大学生活サバイバル術」（研成社）

2) 経営コミュニケーション学科

基礎演習Ⅰ　　2単位

この学部と学科の特徴を理解して、単位の取り方や履修計画、学習方法など、大学生活に必要な基礎知識を身につけることが第一の目標です。同時に、日本語の作文技術、ノートの作成方法、インターネットでの情報検索技術など、レポート作成などに必要な基礎技術を修得することも目標とします。また、様々な授業を通じて、大学 4 年間の学習計画や、その後の進路な

どについても考えてもらいます。

授業計画　第 1 回　授業内容・カリキュラム・履修登録の説明
第 2 回　キャンパス見学 1
第 3 回　キャンパス見学 2（どちらかに図書館の利用法説明を含む）
第 4 回　日本語の作文技術 1－句読点をつける－
第 5 回　日本語の作文技術 2－主語と述語を明確にする－
第 6 回　ノートの作成方法 1－メモの取り方
第 7 回　ノートの作成方法 2－資料とメモの整理
第 8 回　インターネットによる情報検索 1－検索方法－
インターネットによる情報検索 2－テーマを決めて情報を探す－
第 9 回　レポートの作り方 1－構成を明確にする－
第 10 回　レポートの作り方 2－文章と図表を配置する－
第 11 回　発表の方法 1－資料を作る－
第 12 回　発表の方法 2－プレゼンテーションを行う－
第 13 回　卒業後の進路を考える

評価方法　出席を重視するとともに、演習への参加態度(演習中の課題提出含む)を重視します。

テキスト名　淑徳大学国際コミュニケーション学部編　「大学生活サバイバル術」（研成社）

3) 文化コミュニケーション学科

基礎演習Ⅰ　　2 単位

クラスのアドバイザー（教員）を通して、学部と学科の特徴を理解し、単位の修得や履修計画また学習方法などの指導を行います。さらに修学基礎教育のスキルプログラムと連動させ、本学科独自によるレポート或いはエッセイなどの文章作成上の指導を行います。各アドバイザーが選んだ課題図書を読み、レポートし、プレゼンや合評会などを経て、より完全なレポートに仕上げ、優秀な作品は表彰します。こうした過程を通して学ぶことの意味や自己発見につながればと願っています。

授業計画　第 1 回　履修指導・課題図書の紹介
第 2 回　図書館利用法
第 3 回　資料収集法
第 4 回　レポート作成指導(1)
第 5 回　合評会
第 6 回　レポート作成指導(2)
第 7 回　レポート作成指導(3)
第 8 回　プレゼン・ディスカッション(1)
第 9 回　プレゼン・ディスカッション(2)
第 10 回　レポートの提出
第 11 回　教員による添削
第 12 回　再提出
第 13 回　優秀作品の発表

評価方法　出席を重視するとともに、演習への参加態度、レポート内容で評価する。

テキスト名　淑徳大学国際コミュニケーション学部編「大学生活サバイバル術」（研成社）　課題図書

同プログラムをより実効性あるものとするために、ＦＤ組織・検証組織が各々の学部に設置されている。修学基礎教育科目の学習内容のモデル案、シラバスの恒常的検討、担当教員間の連絡調整等を行っている。また、具体的な教育効果の検証作業については、学生個々人の学習成果の到達度について自己評価方式によるアンケート調査を実施している。教員については、授業運営上の問題点等についての情報収集を図り、担当教員の会議において検討している。

国際コミュニケーション学部では、学部の「基礎教育チーム」が、修学基礎教育に必要なコンテンツのリストアップ、高校の教育内容との摺り合わせ、これらをもとにした教育内容の検討にあたっている。また、教員については、授業運営上の問題点等についての情報の共有化を図り、学科会、教授会において報告・検討している。

（２）ＦＤ事業

・「全教員会」の全学的展開

本学では、それぞれの学部教育における人材育成目標の確認、教育課程編成上の特徴点、教育上の留意点等について、専任教員並びに非常勤教員がともに共有し、より効果的な授業の展開を図るべく、学部単位で「全教員会」を前学期と後学期の初めに開催している。

この FD の一環としての「全教員会」は、平成 8 年の国際コミュニケーション学部開学時より、同学部において実施されてきたのであるが、平成 16 年度には総合福祉学部でも実施している。平成 17 年度は全学的な実施となって 2 年目となる。

全教員会の内容の概略は次のとおりである。

① 各々の学部教育における人材育成目標と教育課程の説明

② 目標達成のための教育上の留意点等の説明

③ 受講学生に対する教育方針、授業運営上の留意点の説明

④ 学生に対する授業アンケート調査の結果の報告等

なお、国際コミュニケーション学部においては、GPA 制度を導入しているため、その結果報告も行っている。また、総合福祉学部では、社会福祉士の養成教育などについて部会制による授業の点検の場が設けられている。

（３）学生指導の充実

・「オフィスアワー制度」の全学的展開

みずほ台の国際コミュニケーション学部では、平成 10 年度よりオフィスアワー制度が導入されている。同学部における本制度の位置づけは、学習支援センター、GPA 制度そして専任教員によるアドバイザー制度の３つが、一体的に構成・運営される学習支援体制である。オフィスアワーにおいてキーとなるのは専任教員によるアドバイザー制度である。専任教員は全員、週に 90 分以上、昼休みの時間帯や授業の空き時間帯等にオフィスアワーを設け、研究室において学生の質問や相談を受けることとになっている。学生は事前に予約することなく自由に研究室を訪れることができ、教員の不在時には、e－mail などでも対応することとしている。

総合福祉学部においては、平成 17 年度の後学期から社会福祉学科でもオフィスアワー制度が導入され、これにより全学的に運用されることとなった。総合福祉学部の場合、専任教員によるアドバイザー制度や、e－mail による対応などは現在のところ行われていない。

（４）教育事業の展開

・転学部制度の創設

在学生の進路変更等に柔軟に対応すべく「総合福祉学部」と「国際コミュニケーション学部」の間の転学部制度を設け、転学部に係る諸規程を整備した。

・国際交流事業の合同開催　ブラジル研修

ブラジル研修は、総合福祉学部においては昭和 61 年から実施され、平成 17 年度で 20 回目となる。本研修の目的は、本学創立者であり仏教社会福祉事業の先駆者である長谷川良信が生活に困窮するなど社会福祉的な支援を必要とするブラジル移民の方たちに対し、大乗仏教の理念に基づいて実践・展開した当地での宗教的福祉的な活動の事跡を体験的に学ぶことによって「建学の精神」を学習するとともに、国際的視野に立った社会福祉の理念と実践を体得し、あわせて日伯交流に寄与することを目的としている。

研修は 7 月下旬から 9 月上旬までの約 1 ヵ月半の期間行われ、主な研修先は学祖が活動拠点とした浄土宗南米開教総監部（サンパウロ、南米浄土宗日伯寺）の他、浄土宗マリンガ日伯寺、浄土宗イビウーナ日伯寺、パラナ老人福祉和順会、パラナ州マリンガ特殊教育学校、北パラナリハビリセンター、未婚の母施設、サントス厚生ホーム、こどもの園(精神薄弱児教育施設)等である。また、日系移民先でのホームステイ等多彩であり、当地の青年グループとの交流機会も設けられている。

なお、国際交流事業の全般的な見直しの一環として、建学の精神を体得するブラジル研修制度を、平成 17 年度より国際コミュニケーションとの合同開催として実施している。

これまでの派遣実績は 92 名であり、第 20 回の平成 17 年度の派遣研修生は総合福祉学部が 4 名、国際コミュニケーション学部が 3 名の合計 7 名である。

（５）キャリア支援体制の充実

・ジョブフェアの合同開催

これまで、本学では、学部単位でジョブフェアを開催し、就職希望の学生に対し求人情報等を提供してきた。今年度より、学生に対するキャリア支援事業の強化策として大学単位による合同開催方式に切り替えた。これは、首都圏に広く在住する本学在学生に対し、今まで以上のより多くの求人情報を学生に提供することをねらったものである。

千葉キャンパスにおけるジョブフェア(総合福祉学部)は平成 18 年 1 月 27 日に、ホテルニューオータニ幕張を会場に開催された。総合福祉学部（社会学部）参加者は 341 名、国際コミュニケーション学部参加者は 27 名であった。

みずほ台キャンパスにおけるジョブフェア(国際コミュニケーション学部)は平成 18 年 2 月 7 日に、みずほ台キャンパス体育館を会場に開催された。国際コミュニケーション学部

参加者は 185 名、総合福祉学部（社会学部）は 22 名であった。

両ジョブフェアへの参加学生数は総合福祉学部 363 名、国際コミュニケーション学部 212 名の合計 575 名であった。

2　社会貢献活動

・地域支援ボランティアセンターの設置

地域支援のための社会貢献活動を行うために「地域支援ボランテイアセンター」を千葉キャンパスに設け、みずほ台キャンパスにセンター支部を設置した。事業目標は、地域ボランティアの情報収集と発信、学生ボランティア要員の育成・募集と派遣、局地的災害に対する支援、大学の所在地が被災地となった場合の被災者の受け入れ、募金活動等である。

3　その他

・淑徳大学の個人情報の取り扱いについて

淑徳大学学生個人情報保護規程の制定

学生の住所・氏名や単位取得状況等の個人情報保護に関する規程を整備するとともに、学生並びに保護者に対し、本学としての個人情報保護方針について周知を図った。淑徳大学の個人情報の取り扱いについては(『大学基礎データ等』別表 3)を参照されたい。

・教学組織の整備

大学としての両学部の教育事業、学生指導、キャリア支援体制等における一体的かつ円滑な運営を目的に、全学レベルでの教学組織体制の整備を行った。

大学教務委員会の設置

大学協議会規程に基づき大学教務委員会規程を設け、教務に関する全学的な事項について各学部間の連絡調整を図ることとした。協議事項としては、大学共通教養科目に関する事項、教務日程の年間計画に関する事項等である。

大学学生厚生委員会の設置

大学協議会規程に基づき大学学生厚生委員会規程を設け、学生指導及び生活支援に関する全学的な事項について各学部間の連絡調整を図ることとした。協議事項としては、学生の福利厚生、課外活動及び生活支援に関する事項等である。

大学就職委員会の設置

大学協議会規程に基づき大学就職委員会規程を設け、学生の就職対策に関する全学的事項について、各学部間の連絡調整を図ることとした。協議事項としては、就職についての学生指導に関する事項、就職先との連携に関する事項、就職について卒業生及び修了生への紹介等に関する事項等である。

大学国際交流委員会の設置

大学協議会規程に基づき大学国際交流委員会規程を設け、国際交流に関する全学的な事項について各学部間の連絡調整を図ることとした。

・「淑徳大学開学 40 周年記念事業」

本年度は、本学が開学（千葉キャンパスに社会福祉学部社会福祉学科として）されてから 40 周年にあたることから、「開学 40 周年記念事業」を実施するとともに、第 1 回目の「ホームカミングデー」を開催した。事業の内容は以下のとおりである。

テーマ；「共に歩み、共に歩みつづける未来へ～淑徳大学 40 年からの進化～」

日　時；平成 17 年 11 月 3 日(木)　午前 10 時 30 分開式

場　所；淑徳大学千葉キャンパス及び大巌寺

行事内容は　① 物故者追悼法要(音楽法要、学長法話を含む)、② 開学 40 周年記念写真展、③ 淑徳大学 40 周年記念式典、④ 講演会及びシンポジウム、そして、⑤ 懇親会（第 1 回ホームカミングデー）である。ホームカミングデーには 98 名の卒業生が参集した。

・「学生生活実態調査」の実施

本学では、以前より在学生の学習上あるいは生活上のニーズを把握するとともに大学としての自己点検・評価事業の一環として「学生生活実態調査」を実施してきた。平成 17 年度は第 4 回の調査を実施した。調査により得られた結果については、関係部署等が協議し、対応策等を学生に公表した。

・「平成 16 年度版淑徳大学年報」の発行

(財)大学基準協会から認証評価・相互評価を受けたことを契機に、本学の自己点検・評価を制度的、且つ恒常的に実施することを目的に、「大学年報」を毎年発行することとした。既に、平成 16 年度版が発行されている。

大学年報の構成は、(財)大学基準協会の点検・評価項目に準拠している。同協会の点検・評価のうち「大学基礎データ」については毎年分を掲載しているが、教育事業等に関する点検・評価に関しては、それを概ね 3 分割し、3 年間で全ての項目について点検・評価するようにしている。また、当該年度の新規の教育事業や研究活動、社会貢献事業、学生の諸活動等についても掲載し、本学の情報公開事業の一環に位置づけられている。